

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成18年2月(2006年) No.482

## 17年度 年度賞発表

### 年度大賞は山本氏の「シャングリヤ」に 山口さんは年度賞と新人賞のW受賞

昨年より復活されたOMC年度賞の発表が1月15日の総会の席で行われました。年度大賞には山本正夢氏の「シャングリヤ」が、年度賞には鹿児島島の山口幸代さんの「赤い列車の山登り」と江村一郎氏の「よさこい2005」が、また奨励賞には進藤信男氏の「飛翔」が選ばれました。一方遠隔地で作品のみ出品されている鹿児島島の山口幸代さんが、めきめきと上達されて立派に作品を作られるようになったことに敬意を表し、年度賞に合わせて「新人賞」を差し上げることにしました。入賞された方々、まことに御出度うございます。

この他の方々も立派な作品が目白押しで選考に困るほどでしたが、厳密な採点法と最後は選考する幹事の投票によって決定するという公平さを保ち、上記のような入賞作が決まった次第です。なお、選考は日本アマチュア映像作家連盟所属会員8名(合原、有村、関、上総、藤原、吉岡、前田、安居の各氏)の世話役によって実施されました。

#### ■受賞者

- |            |                |        |
|------------|----------------|--------|
| ・年度大賞      | 「シャングリヤ」       | 山本正夢さん |
| ・年度優秀賞、新人賞 | 「赤い列車の山登り」     | 山口幸代さん |
| ・年度秀作賞     | 「YOSAKOI 2005」 | 江村一郎さん |
| ・奨励賞       | 「飛翔」           | 進藤信男さん |

各受賞者にはトロフィと記念品が会長より手渡され、会場から大きな拍手が贈られました。

#### 2月例会のお知らせ

2月例会は第4土曜日25日、午後6時より大阪市立難波市民学習センターにて開催いたします。ハイビジョン作品もカメラ持参なしでDVテープのみでどうぞ。月1回の楽しい例会に、皆様のお越をお待ちしております。

## 総会資料より

## 今年はハイビジョン元年になるか？

### ■過去5年間の例会活動推移

年度	会員	1例会当たり		年間 作品数
		出席数	作品数	
13	41名	25.3名	12.4本	149本
14	37名	26.4名	11.3本	135本
15	40名	26.1名	12.3本	147本
16	40名	27.6名	15.2本	182本
17	41名	28.8名	14.9本	179本

注) 撮影会作品を含む、研究会作品を除く

### ■例会最多出席者

- ・全出席者：江村、奥、合原、増池、前田、関、安居、吉岡、森下、山本の10氏
- ・11回：有村、河合、森口、黒田、華岡、森の6氏

### ■最多出品者

- ・全例会出品者：江村、増池、前田、山本、奥の5氏
- ・11本：有村氏

以上、例会を盛り上げて頂いた方々に感謝し、記念品を贈呈いたしました。

### ■世話役は全員留任

合原会長、関副会長ほか、全世話役の留任が決まり、役割分担表に従って例会運営していくことが承認されました。

### ■平成17年度会計報告

- ・一般会計報告：収入合計は繰越金 35 万余円を含む 72 万円弱、支出合計 38 万余円、次期への繰越金凡そ 34 万円。
- ・撮影会収支報告：収入 29 万余円、支出凡そ 25 万円繰越金約 4 万円。
- ・フェスティバル会計：収入 19 名出品料 1 人 7 千円で 133,000 円、懇親会費 4,000 円×23 名で 92,000 円、一般会計より補助金 26,085 円、収入合計 251,085 円、支出も同額で 251,085 円。差引 0 円。

## 全国コンテスト入賞

### ・東京ビデオフェスティバル2006

入選：一人になって 安居利次さん  
ビクター系の全国コンで海外からの応募も多く、入賞が難しいといわれるコンテストですが、まことにお目出度うございます。

ソニーのハイビジョンカメラが比較的安く入手できるようになったためか、このところ、ハイビジョンを手掛ける会員さんが増えてきました。

先鞭をつけたのがビクターのカメラで前田さん、その画像の美しさにあぜん。その後、藤原さん、石垣さん、奥さん、黒田さん、森田さん、上総さんも HDV 作品発表、秦さん、河合さん、つい最近では進藤さんも撮影中とか。想定外なのは江村さん、考えてみれば映像の美しさを追求されている江村さんのこと、当然の成り行きだったのもうなづけます。おまけに関さんも HCl で雪の餘部を撮影してこられ、私たちを驚かせました。

更に、どうやら有村さんも HCl を手に入れられたと、もっばらのウワサ。主だった会員さんが次々にハイビジョン派へ転向されて、今だ 4 対 3 にこだわっている私など喫茶店での会話にも置いてきぼりを食いそう。例会の作品も今は 4 対 3 とワイド及びハイビジョンが半々という現状が、逆転するのも時間の問題か。どうやら今年はハイビジョン元年になりそうな予感がします。ともあれまずは我慢の一手です。合原

## 1月例会のレポート

1月の例会は15日の午後1時より何時もの例会場で開催しました。司会、合原さん、書記、有村さん、デッキ係に増池さん、江村さん、河合さん、受付兼照明係を奥さん、渡辺さんの担当で進行了ました。

◆出席者：有村、江藤、江村、奥、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、玉井、鉄具、西井、西村、華岡、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森、森口、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺（敬称略）28名の皆さんと作品本数16本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村博）（ハイビジョン=HDV、ワイド=Wで表示します。）

### 1) 夢

西村光雄さん

3分10秒

雪の降る白川郷が美しく描かれる。雪掻

きをする人物が出て、祭のシーンに転換し若い日の祭の夢を迫うという設定のようです。黒塀をバックに降雪を撮影し、祭を撮影した映像にルミナンスキーで合成されたとの事です。前に撮った映像を利用して作品にされたアイデア作品でした。

## 2) コモリン岬

山本正夢さん 6分30秒

東南アジアの偏狭の地を一人で旅される山本さんが今度はインドの最南端の岬に行かれて珍しい風景を紹介されました。海に昇る太陽を拝む敬虔な人達が写ります。交通不便な所で外国人観光客が全く見受けられません。インドと言えばガンジス川の沐浴はよく見せて頂きますが、海での沐浴は初めてです。何気なく撮られた映像のようでも光に映える海辺の風景が情緒豊かに描かれていました。

## 3) 丸亀うちわ

紙本 勝さん 10分00秒

四国香川県丸亀市はうちわの生産量が全国の90%も占めているそうです。港ミュージアムを訪ねて、その歴史や製品、手作りの工程などを紹介しておられます。細かい竹割りや糸編み、紙張りなど40数工程もあるそうです。その一部を興味深く見せて頂きました。この作品を見ていると、夏場に景品で貰った団扇をそこらにほったらかしていたのを思い出して、早速帰って大事に扱おうと思ったことでした。

## 4) あまんぼうの秋

玉井 勻さん 5分40秒

庭に柿の木のある農家に育った少年時代の思い出が語られ、茅葺き屋根に柿といった日本の原風景が描かれてゆきます。次いで干柿の産地の滋賀県米原市近江町を訪ね、その生産風景が紹介されます。余談ですがここは今年のNHK大河ドラマ「功名ヶ辻」の山之内一豊の妻の出生地だそうです。そこで出来る干柿の名前が「あまんぼう」というのだそうです。そこはかとない情感の漂う作品でした。

## 5) 神戸ルミナリエ

西井 学さん 4分40秒

最初に11年前の阪神淡路大震災の惨状が描かれて、次に昨年暮れの華やかな夜景が出てきます。そして最初と最後にナレー

ションで鎮魂の思いを含めて世情批判を語っておられます。「もう少し映像で語りかけてほしかった。でもこういう描き方もあるんだなあ」というのが司会者の会長さんの感想でした。

## 6) 好きやねん恐竜

安居利次さん 7分30秒

好きでたまらない、と言われる安居さんが常設の博覧会場で撮影した映像にご自分の姿をクロマキー合成されて登場させ、その好きさ加減を表現しておられます。ネット映像、資料映像などをふんだんに交えて作られたこの作品は、NHKの科学番組にも決して負けないものだと感心致しました。

## 7) ヒマラヤの夜明け

有村 博さん 4分40秒

平成12年の暮れに西村光雄さんに連れて行ってもらって撮影した映像で未編集のがありましたので、それを中心にまとめました。撮影場所はポカラのサランコットの丘の上とダンプスからです。山好きの作者にとっては貴重な記録ですが、興味のない方々には退屈だったかも知れません。

## 8) ひらかた菊人形 義経

宮崎紀代子さん 5分30秒

「ひらばー」の菊人形も去年で終りやそうです。一度見とかなアカンというので大勢の観客が列をなし、待ち時間も相当なものだったそうです。そんな中で展示人形を克明に描かれ昨年のNHK大河ドラマ「義経」の事が語られます。次に京都の鞍馬寺の周辺がでてきます。やがて又映像は菊人形に戻ります。今年から形は変わるとは言っても96年も続いたイベントの終了と、義経と二つのテーマを短い時間で表現されてご苦労様でした。

## 9) 世紀の祭典

鉄具嘉夫さん 5分00秒

1999年12月31日のカウントダウンフェスタが京都市役所前で行なわれたのを取材されて発表されました。超満員の観衆の最後尾からの手持ち撮影で現場の状況とモニター画面の映像が写し出されます。20世紀から世紀の変わる瞬間を捉えた貴重な映像だったのではないのでしょうか。

10) 火渡り神事 (W)

河合源七郎さん 13分20秒

初め高野山や奈良県天川村の寺の大護摩法要や火渡りの行事などを紹介しながらその由来とか内容の説明がイントロとなって出ます。そして本番は三重県紀伊長島町有久寺の神事を克明に描いておられます。真言宗修験道の神髓を存分に見せて頂きました。車を運転して全国を回られ、其々に十分なコネをつけられて近接撮影を試みられる河合さんに敬意を表したいと思います。

11) 岩湧の秋 (W)

進藤信男さん 5分10秒

和歌山県に近い大阪府南部にある金剛生駒紀泉国定公園にある岩湧山(897.7m)にハイキングに行かれて撮影された作品のようです。所々で奥様らしき同行者が写っていましたが、それ以外人物は殆どなく、野に咲く花や虫が沢山出てきます。いっそご自分を含めて楽しい山歩きを楽しんだといった作品にされたらどうだったかなあーと勝手に思いながら拝見しました。楽しい作品でした。

12) 万博公園の秋 (W)

増池 茂さん 7分00秒

万博公園にも沢山の紅葉がありますね。落葉の舞う風情が晩秋の趣を伝えて情緒があります。紅葉のアップも見応えがありました。ただ惜しむらくはお天気がもう少し好ければ光の屈折が描けたのに残念でした。日本庭園の滝とか溪流では音楽の音量を下げて現場の音を効かせて頂くと、より情感のある風情が感じられるのではないかと、思いました。美しい作品でした。

13) 野仏の里

森口吉正さん 7分30秒

彼岸花咲く田園から浄瑠璃寺へ、京都府当尾地方は独特の風情のある所です。つくつくぼうしが鳴き終わるまでの録音はテープの消費量がさぞ沢山要ったことでしょう。ここには道端に無人の売店や沢山の石仏群が散在しています。中でも有名な「わらい仏」を最後に、森口さん独特の上手なナレーションと相俟って楽しい作品を拝見しました。

14) 梅小路のD51200 (HDV)

前田茂夫さん 7分49秒

蒸気機関車の動態保存で有名な梅小路機関区は重要文化財でもあるそうで、汽車が好きで好きでたまらない前田さんのうってつけの撮影場所のようです。わずか500m程の線路を行ったり来たりするだけのSLをハイビジョンカメラで毎度、事細かに描写して見せてくれます。こういう映像はSLマニアにとっては堪らない魅力があるのだろうかあーと思いながら拝見しました。

15) 今宮戎神社十日えびす (HDV)

奥 宏さん 5分55秒

今年の1月10日の今宮戎を早やハイビジョン編集をして発表されました。その手慣れた早業に先ずは敬服します。露店の並ぶ通りから入口に入って一方通行のコースを克明に描写しておられます。宝恵駕行列の烏帽子を被った福娘の行列は圧巻でした。最後の「えべっさんツンボやさかい、ここ叩いて願い事頼みまんねん」と言わせるくんだりも現場の雰囲気をよく伝えておられて良かったと思えました。楽しい作品でした。

16) 餘部鉄橋 (HDV)

江村一郎さん 6分30秒

イントロは雪景色の中を走る山陰線の列車からの風景です。タイトルバックのトンネルから列車が出ると、鉄橋を含む周辺の秋の風景が静かなピアノ曲ののって美しく表現されます。やがて黒雲の湧き出た夕景の鉄橋から吹雪のシーンに場面転換、クライマックスは吹雪の舞い上がる鉄橋と怒涛逆巻く日本海とがカットバックされて見事な描写が展開します。その構成と云い、迫力と云い、こんな作品を見ては今年行なわれる撮影会の意欲も無くなるように私は思いました。大阪から特急を乗り継いで3時間以上もかかる現地に雪を想定しての日帰りを何度かされた由、風雪で列車が途中の駅から先に行かず引き返した事もあるとかで、自然を相手の撮影の難しさを画面からひしひしと感じる作品でした。映像作品はこれだけでなく、とつくづく思いました。お見事でした。

以上で会員さんの作品上映を終り、一年の総決算、総会を開催し、新年宴会が開かれました。